

令和4年度

教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書

伊那市教育委員会

教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価について

- 伊那市教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価（以下「点検・評価」という。）は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条の規定に基づき実施するものです。

（参 考）

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（関係条文抜粋）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

- 点検・評価は、令和3年度伊那市教育委員会重点施策の達成状況を対象とします。
- 上記重点施策に関連する事務事業は、2～3ページの一覧表のとおりです。
- 自己評価については、概ね下記の基準によります。

評価	内 容
A	優れた取組が多く、十分成果が上がっている
B	優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている
C	一定の成果は上がっているが課題もあり、改善の必要がある
D	成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である

- 「教育委員会評価委員」による点検・評価についての意見は、最終ページに記載しています。

令和3年度伊那市教育委員会重点施策に関連する事務事業一覧

No.	重点施策	事務事業名	評 価	備 考
第1節 地域への愛着と誇りを育む教育				
1－1： 学校教育				
1	学校教育の充実 学校・家庭・地域の連携強化	総合的な学習	A	学校教育課
2		キャリア教育の推進	A	学校教育課
3		幼保小中の連携	B	学校教育課
4		読書活動の推進	B	学校教育課
5		学校備品整備・情報教育	A	学校教育課
6	きめ細やかな学びの支援	学力向上	B	学校教育課
7		特別支援教育	B	学校教育課
8		外国籍児童生徒の支援	B	学校教育課
9	安心安全な給食と食育の推進	給食運営・給食施設整備	B	学校教育課
10	学校施設の耐震化・長寿命化と適正配置	学校施設の耐震化・改修整備	B	学校教育課
1－2：教育連携				
11	高等学校との連携	高等学校振興	B	学校教育課
12		私立高等学校振興	B	学校教育課
13	大学との連携	信州大学・東京藝術大学との連携	C	学校教育課
1－3：心の教育				
14	不登校対策の推進	中間教室	A	学校教育課
15		不登校児童生徒支援ネットワーク	B	学校教育課
16	虐待防止対策の推進	子育て教育支援相談、家庭児童相談	B	学校教育課
17	いじめ防止対策の推進	子どもと親の相談員の配置	B	学校教育課
18		スクールカウンセラーの配置	B	学校教育課
1－4：青少年健全育成・家庭教育				
19	子どもの居場所と安心安全の確保	少年補導委員会・少年補導センター	B	生涯学習課
20		学童クラブ	A	生涯学習課
21	地域・関係機関との連携による家庭教育の充実	青少年育成対策	C	生涯学習課
22		成人式	B	生涯学習課
第2節 生涯にわたる学びの支援とスポーツの振興				
2－1：生涯学習				
23	生涯学習・社会教育の推進	市民大学・市民大学大学院	B	生涯学習課
24		桜大学	B	生涯学習課
25		長谷生涯学習講演会	A	生涯学習課
26		社会人権同和教育	B	生涯学習課
27		学校人権同和教育	B	学校教育課
28	公民館活動の推進	集会施設建設等補助	B	生涯学習課
29		公民館建設	A	生涯学習課
30		公民館共同事業	C	生涯学習課
31		公民館事業	B	生涯学習課
32	図書館の充実	蔵書管理	B	生涯学習課
33		図書館イベント	B	生涯学習課
34		図書館分館	B	生涯学習課

2－2：文化・芸術				
3 5	文化芸術の振興と地域文化の育成	進徳館の日	B	生涯学習課
3 6	文化財の保存・継承・活用	史跡高遠城跡	B	生涯学習課
3 7		民俗資料館	A	生涯学習課
3 8		旧井澤家住宅	B	生涯学習課
3 9		民俗文化の伝承	B	生涯学習課
4 0		市誌編さん	A	市誌編さん室
4 1	文化芸術施設の充実及び活用	創造館	B	生涯学習課
4 2		高遠町歴史博物館	B	生涯学習課
4 3		信州高遠美術館	B	生涯学習課

第1節 地域への愛着と誇りを育む教育

児童生徒らが自ら生きる力を育むために、「はじめに子どもありき」の教育理念のもと、郷土の教育資源を生かした食育やキャリア教育をはじめ、体験や対話を重視した人間性に満ちた教育により、心豊かな人づくりに取り組みます。また、豊かな自然や歴史文化に恵まれた郷土の魅力を学び、ふるさとに対する誇りや感謝の気持ちを育むとともに、郷土愛を受け継ぐ次の世代の人材育成に努めます。

1－1： 学校教育

教育理念「はじめに子どもありき」の具現化を図るため、「学校教育の充実、学校・家庭・地域の連携強化」、「きめ細かな学びの支援」、「安心安全な給食と食育の推進」、「学校施設の耐震化・長寿命化と適正配置」により、全ての教育活動を「子どもに発し、子どもに還る」ものとするよう努めます。

(1) 学校教育の充実、学校・家庭・地域の連携強化

事 務 事 業	No.1	総合的な学習		R3 年度決算額	6,638 千円
事業の目的	子どもたちの生きる力、郷土を愛する心を育むため、地域の自然や歴史、文化を学習するなど、子どもの求めや願いを大切に伊那市らしい総合的な学習を推進します。				
事業内容	各学校が主体的に取り組む「体験学習」、「交流学习」、「体力づくり」など創造的な学習の支援				
達成状況	○全小中学校において、地域の特色を活かした総合的な学習を実施しました。 ○創造的活動推進事業交付金、信州型コミュニティ・スクール交付金を、全小中学校に交付しました。				
	区分	学校名	令和3年度主な取り組み		
	小学校	伊那	動物飼育（羊・ポニー他）、農作物栽培と調理、伝統文化の学習など		
		伊那東	稲・野菜栽培と調理、高齢者・養護学校交流、地域・文化学習など		
		伊那北	稲・野菜栽培と調理、里山利用と整備活動、季節行事、学習発表など		
		伊那西	生き物飼育、学校林学習、家づくり、稲・野菜栽培と調理、など		
		富県	地域探検、田楽座・保育園との交流、稲・野菜栽培と調理等		
		新山	稲・野菜栽培と調理、地域交流活動など		
		美簗	こんにゃくづくり、たたき染め体験、井月学習、稲・野菜栽培など		
		手良	稲・野菜栽培・調理、花づくり、環境学習、手良っ子太鼓等		
		東春近	稲・野菜・大豆・花栽培、二分の一成入式、フィンランド交流等		
		西箕輪	養蚕学習、稲・大豆作り、養護学校交流、伝統行事・獅子舞体験等		
		西春近北	野菜・大豆栽培学習、地域太鼓学習・漬物作り、地域探検学習など		
		西春近南	稲・野菜・大豆栽培と調理、通学路のゴミ拾い、たたき染め体験など		
		高遠	稲（合鴨農法）・野菜栽培、たたき染め体験、進徳館の学習等		
		高遠北	小麦・野菜栽培、生き物飼育、花壇活動、地域探検、音楽創作など		
		長谷	稲・野菜栽培、生き物飼育、孝行猿劇、カルタづくり、地域学習など		
	中学校	伊那	自然体験・動画制作、農業・職場体験、高校生・起業家との交流等		
		東部	上伊那カレー調理、キャリア学習、命の授業講演会等		
		西箕輪	自然体験学習、職場体験、保育園・伊那養交流、和太鼓演奏等		
		春富	キャリア教育、職場見学・体験、「とんぴちや祭り」実施等		
		高遠	森林学習、キャリア教育、野菜栽培、観桜期ボラ活動、高校調査など		
		長谷	中学生の地域おこし活動、高齢者との交流、唐辛子栽培・ラー油など		
事業の課題及び方向性	【課題】総合的な学習の位置づけを常に明確にする必要があります。「体験学習」や「交流学习」を通して、生きる上で必要な自己肯定感、創造性、やる気、忍耐力、コミュニケーション力などテストでは測定できない「非認知能力」を育む必要があります。				

	【方向性】地域の自然や文化・伝統など様々な学びや体験を通して行なわれる総合的な学習を推進します。また、信州型コミュニティ・スクール事業を軸に取り組み、地域協働の開かれた学校づくりをさらに推進します。	
自己評価	A	

事務事業	No.2	キャリア教育の推進	R3 年度決算額	4,101 千円
事業の目的	子どもたちが社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現する力を育むために、学校、家庭、地域、産業界、行政が協働してキャリア教育の推進に取り組みます。			
事業内容	○伊那市キャリア教育推進委員会の運営 ○職場体験学習の実施 ○伊那市中学生キャリアフェスの実施 ○キャリア教育産学官交流会ほか郷土愛プロジェクト事業への参画			
達成状況	○市内中学生を対象に学校、事業所と連携を図りながら職場体験学習を実施しました。 ・実施生徒数 406 人 平均実施日数 3 日 ・受入れ事業所数 132 か所 (H30:177 か所、R1:161 か所、R2:96 か所) ※新型コロナウイルス感染症の影響により、2校で実施を取りやめ、代替え授業等により対応しました。 ○中学生が新たな出会いや発見を体感しながら、地域の良さを改めて実感し、未来を考える機会として、伊那市中学生キャリアフェスをオンラインで開催しました。 ・参加生徒数 市内全6中学校2年生 586 人 ・出展ブース数 63 ○上伊那の産学官組織が協働しながら、次世代育成や地域づくりを実践する郷土愛プロジェクトの事業に参画しました。 ・キャリア教育産学官交流会 参加者 220 人 (H30:292 人、R1:296 人、R2:245 人)			
事業の課題及び方向性	【課題】職場体験学習の実施に係る手続等の事務の流れは定着していますが、生徒・学校と受入れ事業所との目的、理念の共有を更に図っていく必要があります。 【方向性】事前・事後学習等を通じて生徒一人一人に目的意識を持たせるための支援を行うとともに、地域で子どもを育てるとする伊那市キャリア教育憲章のビジョンに関係者間で共有する取組を推進します。また、キャリア教育の一貫性、継続性を担保するため、小学校、高校等との更なる連携を図ります。			
自己評価	A			



キャリア教育
(伊那市中学生キャリアフェス2021
オンラインで実施)

事 務 事 業	No.3	幼保小中の連携	R3 年度決算額	1 千円
事業の目的	保育園・幼稚園と小学校双方が幼児期から学童初期における子どもの発達と活動（遊びと教育）についての理解を深め、育ちや学ぶ意欲がスムーズに引き継がれ、健やかな成長を支援できるよう幼児教育と小学校教育の双方の質の向上を図るとともに、中一ギャップと言われる中学校進学時の不登校の増加など、学校不適應への適切な対応を図ります。 子どもが抱える課題などについて早い時期から情報の共有を図り、早期に適切な支援を行い、不適應、不登校等への早期対応、未然防止を図ります。			
事業内容	○幼保小連絡会、小中連絡会の開催 ○学校行事等を通じた児童生徒の交流 ○保育士、小学校教職員の相互体験 ○幼保小・小中連携推進委員会開催 ○幼保小連携プログラムの実践			
達成状況	○保育士・小学校教職員の相互1日体験を実施、子どもの実態を体験的に感得することで双方の意識変革を促す取組になっています。 ○「幼保小連携推進委員会」において作成した伊那市版「幼保小連携プログラム」に基づく、地域の特性を生かしたアプローチ・スタートカリキュラムの作成、実践により、保育園から学校へのスムーズな接続が図られています。 ○支援を要する子どもを対象に「成長ダイアリー」を作成し、幼・保・小・中・高の情報共有を図っています。			
事業の課題及び方向性	【課 題】小1プロブレム、中1ギャップと言われる進学時の学校不適應への対応が求められています。 【方向性】児童生徒、教職員間の相互交流などを通して心的距離の縮小を図ります。 伊那市版「幼保小連携プログラム」について、カリキュラムの実践、検証、見直しを進めます。			
自己評価	B			

事 務 事 業	No.4	読書活動の推進	R3 年度決算額	49,266 千円
事業の目的	心豊かな人間性と自ら学ぶ学習意欲を育むため、学校図書館の充実を図るとともに、読書活動を推進します。			
事業内容	○学校司書の配置 ○読み聞かせボランティアの活用及び充実 ○学校図書館システム活用			
達成状況	○「朝読書」などの全校一斉読書、地域のボランティア等による読み聞かせを全小中学校で行っています。 ○全校に配置した学校司書（17人うち2校勤務4人）が、読書活動や図書館活用の支援、読書環境の充実に力を発揮しています。 ○図書館システムを全小中学校に導入し、活用しています。（R3 システム更新） 【参考】図書館の本の1人当たり平均貸出冊数 小学校 115 冊（H30:105 冊、R1:117 冊、R2:120 冊） 中学校 31 冊（H30: 23 冊、R1: 31 冊、R2: 32 冊）			
事業の課題及び方向性	【課 題】読書習慣の定着、自主的、主体的学習活動の支援、情報の収集、選択、活用能力の育成が求められています。また、図書館システムの更なる有効活用を検討する必要があります。 【方向性】引き続き学校図書館の蔵書の充実を図るとともに、図書館を活かし子どもの読書活動や調べ学習を支える学校司書を配置します。 読み聞かせボランティアの活用を図り、読書活動を推進します。 市立図書館と連携し、図書館システムの有効活用を図ります。			
自己評価	B			

事務事業	No.5	学校備品整備・情報教育	R3 年度決算額	442,430 千円
事業の目的	情報教育を含む教育環境の充実を図るため、教材備品及び情報機器の整備を推進します。			
事業内容	○一般教材・理科教材備品の整備 ○タブレット端末、校務用パソコン、電子黒板セット等の環境整備 ○「学校教育の情報化ビジョン」実現のための取組			
達成状況	○必要な教材備品及び情報機器を整備しました。 ○コロナ禍において対面での I C T 研修の実施が難しい中、オンライン開催等工夫をしながら教員のスキルアップに努めました。 ○コロナ禍において学級閉鎖や自宅待機児童生徒でも学びを止めることなく、タブレット端末を使った遠隔授業が行うことができました。 ○児童生徒 1 台/1 人のタブレット整備が完了し GIGA スクール構想が本格的に始まりました。 【参考】 タブレット端末の総数 児童生徒用 5,601 台 教員用 455 台 電子黒板及び周辺機器整備台数 274 セット (21 校) 小中学校の無線 LAN 環境の高速化率=100%			
事業の課題及び方向性	【課題】 GIGA スクール構想による整備により一人一台のタブレット整備がされ、これまでに以上に児童生徒及び教員のスキルアップが必要である。また、一人一台となったことにより、Web サイトやクラウドサービスへ同時に多数のアクセスがある場合に通信が滞る現象が生じるため対処の検討が急務となっています。 【方向性】 学校からの要望に基づき、教材備品・理科備品を整備すること、情報教育においては、児童生徒の個別最適な学び・主体的な学び・創造性を育む学び実現のため、支える先生方の I C T 研修会や支援体制の充実をはかり、教員の I C T 活用指導力向上を目指します。また、情報セキュリティ意識の向上と正しい利用のための情報モラル教育を進めます。			
自己評価	A			

(2) きめ細やかな学びの支援

事務事業	No.6	学力向上	R3 年度決算額	4,624 千円
事業の目的	自ら学ぶ意欲や学習習慣の形成を図るため、①学力検査の結果などを基に授業改善などに努め、児童・生徒一人一人の実態に応じた学習指導を行います。②小学校と中学校の放課後等に行われる自発的な学習活動を支援します。③中学生が長期休業中でも安心して過ごせる学びの場所を確保します。			
事業内容	○標準学力検査 (NRT) の実施 ・小学4年生 (538 人) 算数・小学5年生 (546 人) 国語、算数、 ・中学2年生 (559 人) 国語、数学、英語 ○学力検査結果の分析と授業改善 ○中学生の放課後学習支援事業の実施 ○小学生の学力向上支援 (授業中、業間、放課後) 事業の実施 ○読み書きにつまずきのある児童の早期発見・支援事業の実施 ○中学校の長期休業中に、学習支援を受けながら自主的に学びを深め、基礎的な学力の定着を図るとともに、長期休業中の規則正しい学習リズムと安心できる居場所を確保する			
達成状況	○伊那市が標準学力検査 (NRT) を始めて 18 年が経過し、小中学校共に基礎・基本の学力の定着がみられます。各校においては、検査結果の分析を基に個別指導、授業改善に取り組むとともに、学力向上と関係が深い「早寝、早起き、朝ごはん、朝読書」など生活習慣の定着を進めました。			

	○教育長、指導主事、学校長で構成する「学力向上検討委員会」を設置し、検査結果の検討、分析を行うとともに、「学力向上のための実践事例発表や講演会」を開催し、検査結果を基にした授業改善と有識者講師による講演から今後の進めるべき方向性を模索するとともに、授業改善リーフレットを市内小中学校の全教員に配布し授業改善を呼びかけました。 ○中学校の放課後学習支援員を募集、委嘱し、中学生の学力向上を支援しました。 受講生徒数 223 人 (H29:561 人、H30:402 人、R1:346 人、R2:219 人) 支援員数 41 人 (H29: 59 人、H30: 51 人、R1: 60 人、R2: 67 人) ○小学校の放課後等の学習支援員による学力向上支援事業を行いました。 受講児童数 1325 人 (H29:926 人、H30:1130 人、R1:1119 人、R2:341 人) 支援員数 53 人 (H29: 58 人、H30: 59 人、R1: 53 人、R2: 30 人) ※コロナの全国一斉臨時休業による影響で、一部の学校で放課後等の学習の取組ができない学校がありました。 ○全小学校の 1 年生～3 年生に MIM(多層指導モデル)の導入をしており、読み書きについての研修を実施しました。 ○中学校の長期休業中(夏・冬・春)に「中学生の自習室」として市内 5 ヶ所の公民館を会場に、学習支援員を配置し、午前中の時間、お昼の軽食付きで実施しました。 延べ参加生徒数 (夏) 305 人、(冬) 82 人、(春) 97 人
事業の課題及び方向性	【課 題】令和 3 年度に市が実施した標準学力検査では、小学校 4 年生の算数、中学校 2 年生の国語、英語は全国平均に比してやや低い正答率です。その他の小学校 5 年生の国語・算数、中学校 2 年生の数学はおおむね全国標準の範囲内にあります。 【方向性】市校長教頭会の学力向上検討委員会において、各教科の課題と改善策を市校長会、教頭会、授業づくり研修会で提案するとともに、学力向上支援ボランティアの活用を引き続き継続するとともに、A I ドリルの導入を進めます。
自己評価	B



中学生の自習室



放課後学力向上支援事業

事務事業	No. 7	特別支援教育	R3 年度決算額	79,407 千円
事業の目的	知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱、弱視、難聴、言語障害、情緒障害等心身に障害のある児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行います。			
事業内容	○特別支援教育支援員・講師の配置 ○伊那中央病院院内学級の設置、運営 ○「ことばの教室(伊那小学校)」、「まなびの教室(伊那北小学校・東春近小学校(サテライト教室))」及び「学びの教室(東部中学校)」の設置・運営 ○特別支援教育就学奨励費の支給			

達成状況	○特別な教育的支援を必要とする児童生徒の増加に対応するため、特別支援教育支援員等を市費で配置しました。 【参考】特別支援学級在籍児童生徒数・クラス数・支援員数 <table><tr><th rowspan="2"></th><th colspan="2">小学校</th><th colspan="2">中学校</th><th rowspan="2">支援員数 内()講師数</th></tr><tr><th>児童数</th><th>クラス数</th><th>生徒数</th><th>クラス数</th></tr><tr><td>H30</td><td>259</td><td>48</td><td>120</td><td>21</td><td>41(1)</td></tr><tr><td>R 1</td><td>249</td><td>45</td><td>125</td><td>22</td><td>46(1)</td></tr><tr><td>R 2</td><td>252</td><td>47</td><td>130</td><td>23</td><td>43(1)</td></tr><tr><td>R 3</td><td>248</td><td>46</td><td>132</td><td>23</td><td>46(1)</td></tr></table> 特別支援教育就学奨励費の支給 238 人 (H30:236 人、R1:238 人、R2:248 人) ○副学籍制度による、特別支援学校に就学する児童生徒と居住する地域の小中学校の児童生徒の交流及び共同学習の拡充に努めました。(副学籍児童生徒 41 名)						小学校		中学校		支援員数 内()講師数	児童数	クラス数	生徒数	クラス数	H30	259	48	120	21	41(1)	R 1	249	45	125	22	46(1)	R 2	252	47	130	23	43(1)	R 3	248	46	132	23	46(1)
	小学校		中学校		支援員数 内()講師数																																		
	児童数	クラス数	生徒数	クラス数																																			
H30	259	48	120	21	41(1)																																		
R 1	249	45	125	22	46(1)																																		
R 2	252	47	130	23	43(1)																																		
R 3	248	46	132	23	46(1)																																		
事業の課題及び方向性	【課題】特別支援学級に在籍している児童生徒数が増加傾向にあるとともに、自・情障学級では、学年が上がっても在籍児童数が減少しない傾向にあります。また、通常学級においても学習障害 (LD)、注意欠陥多動性障害 (ADHD)、広汎性発達障害等、学習や生活の面で特別な教育的支援を必要とする児童生徒が増加しており、支援体制の充実が求められています。 【方向性】関係機関との連携を図り、子どもの教育的ニーズに最も的確に応える支援を提供するとともに、ノーマライゼーションの観点からも、自・情障学級から通常学級への転籍に向けた支援のあり方を検討する必要があります。 また、児童生徒、保護者等が障害への理解を深めるとともに、特別支援学校に通う子どもたちが、友だちとの繋がりや地域での存在感を継続できるよう副学籍制度の充実に努めます。																																						
自己評価	B																																						

事 務 事 業	No.8	外国籍児童生徒の支援		R3 年度決算額	9,903 千円																				
事業の目的	通訳、相談、学習支援等の支援体制を整備し、外国籍児童生徒の学校生活への適応、学力の定着を図る。																								
事 業 内 容	○日本語教室の設置、運営（伊那東小、伊那北小、東部中） ○外国語児童生徒支援相談員の配置（伊那北小、東部中） ・児童生徒の学習及び学校生活の支援、家庭への便りの作成、家庭との連絡、通訳等 ○発達障害等、特別な教育的支援を必要とする外国籍児童の支援、家庭と学校との連絡、通訳等に当たる支援員の配置（伊那東小）																								
達 成 状 況	外国籍児童生徒に対する、通訳、相談、学習等の支援を継続して行いました。 【参考】外国籍児童生徒数 <table><tr><td></td><td>伊那東小学校</td><td>伊那北小学校</td><td>東部中学校</td></tr><tr><td>H30</td><td>31</td><td>45</td><td>34</td></tr><tr><td>R 1</td><td>31</td><td>48</td><td>31</td></tr><tr><td>R 2</td><td>36</td><td>47</td><td>32</td></tr><tr><td>R 3</td><td>22</td><td>46</td><td>41</td></tr></table> その他 小学校 6校 20 人、中学校 2校 7 人						伊那東小学校	伊那北小学校	東部中学校	H30	31	45	34	R 1	31	48	31	R 2	36	47	32	R 3	22	46	41
	伊那東小学校	伊那北小学校	東部中学校																						
H30	31	45	34																						
R 1	31	48	31																						
R 2	36	47	32																						
R 3	22	46	41																						
事業の課題及び方向性	【課 題】障害があり特別な支援を必要とする外国籍児童への対応や多様な言語への対応を求められるケースが増えています。 【方向性】日本語教室の設置、運営と外国語児童生徒支援相談員等の適切な配置を引き続き行います。																								
自己評価	B																								

(3)安心安全な給食と食育の推進

事 務 事 業	No.9	給食運営・給食施設整備	R3 年度決算額	554,171 千円
事業の目的	児童生徒が食事に関する正しい理解と望ましい食習慣を身につけるため、栄養バランスのとれた給食を提供するとともに、食育を推進します。			
事業内容	○給食運営 ○栄養士、給食技師の配置 ○伊那市学校給食食農体験事業「暮らしのなかの食」への取り組み			
達成状況	食材の共同購入により、経費の縮減を図るとともに、栄養士を各学校及び調理場に配置することにより、食育の推進を図り、地産地消の安全安心な美味しい給食を提供しました。(令和3年度県内産食材利用率 約61.6%) 【参考】給食提供数R3:1,188,341食(H30:1,257,241食、R1:1,229,424食、R2:1,087,622食) 給食技師数78人(H30:77人、R1:73人、R2:77人) 給食1食あたりの経費 212円(H30:187円、R1:193円、R2:224円) 【参考】給食運営費÷給食提供数=R3:251,362,068円÷1,188,341食(四捨五入) 伊那市学校給食施設整備計画に沿って給食施設の整備を行いました。 ・西春近南小学校給食調理場建設 287,298千円 伊那市学校給食食農体験事業「暮らしのなかの食」への取り組みを市内全校で行いました。 ・活動事業費(食育に係る各学校への配当等) 1,570千円			
事業の課題及び方向性	【課題】子どもに安全安心、そして美味しい給食を提供するとともに、子どもの食に対する理解を深める必要があります。 【方向性】各学校と連携を取りながら、本格的な農業体験に基づく作物の育成、食材の生産及び食に対する「いただきます」「もったいない」の感性を育む食農体験事業「暮らしのなかの食」の取り組みを小中学校21校で継続します。また、人的配置、食材調達等効率的な給食運営を図るとともに、計画的に給食施設の整備を行います。			
自己評価	B			



田植え



椎茸栽培(こま打ち)

(4) 学校施設の耐震化・長寿命化と適正配置

事 務 事 業	No.1 0	学校施設の耐震化・改修整備	R3 年度決算額	193,929 千円
事業の目的	○児童生徒の安全確保と地域の防災拠点の整備を図るため、小中学校施設の非構造部材耐震化とトイレの改修を行います。 ○施設の維持管理を行うとともに、教育環境の改善を図るため、校舎内外の大規模改修整備を行います。			
事業内容	○耐震化工事 平成 27 年度より、各校の非構造部材（天井材・窓ガラス・照明器具等）の耐震化を進めています。 ○改修工事 耐震化工事と併せて屋根・外壁の改修を行うとともに、トイレの洋式化等を含めトイレの改修を進めています。			
達成状況	○非構造部材耐震化ほか工事の実施 (1) 伊那東小学校体育館（非構造部材耐震化・屋根・LED 照明改修） (2) 東春近小学校体育館（非構造部材耐震化・屋根・LED 照明改修） ○トイレ改修工事の実施 (1) 春富中学校トイレ改修工事 ○大規模改修工事等 (1) 西春近北小学校体育館（屋根等改修） (2) 高遠小学校体育館（LED 照明改修） (3) 中学校ペレットストーブ設置（春富中 16 基）			
事業の課題及び方向性	【課 題】 市内小中学校施設は、昭和 40 年代後半から昭和 50 年代の児童生徒の急増期又はそれ以前に建築されたものが過半数を占め老朽化対策が喫緊の課題となっており、対策には確実な補助金等の財源確保が必要です。 【方向性】 令和 2 年度に「学校施設長寿命化計画（個別計画）」を策定しました。引き続き、国などの有利な財源を活用し、学校施設の非構造部材耐震化工事等を推進していきます。			
自己評価	B			



東春近小学校体育館（非構造部材耐震化・屋根・LED 照明改修）

1－2：教育連携

地域の高等学校と連携を図り、社会変化に対応した教育内容の充実と魅力ある高等教育について働きかけるほか、引き続き過疎地域・私立高等学校の振興のため支援に取り組みます。また、大学や短期大学との連携・交流により、高度で専門性のある教育を受ける環境を創出します。

(1) 高等学校との連携

事務事業	No.1 1	高等学校振興	R3 年度決算額	3,000 千円															
事業の目的	過疎地域の高等学校の振興を図るため、高遠高等学校振興会の活動を支援します。																		
事業内容	高遠高等学校振興会活動の支援																		
達成状況	○高遠高等学校振興会へ負担金を支出し振興会事業を支援しました。 ○H23 から振興会で行う通学費補助事業の経費を市で負担しています。 ○H7 にコース制導入後、文科省の学力向上実践研究校としての実践研究（H21 から3年間）、長野大学、日本福祉大学、東京藝術大学など高大連携の拡充を図るとともに、H24 には、高遠高等学校の将来像検討委員会を設置し、教育内容の改善、充実に努めています。また、伊澤修二記念音楽祭ほか、地域や保育園、小中学校と連携した取組を進めています。 ○入学者数の推移 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>H30</th><th>R 1</th><th>R 2</th><th>R 3</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入学者数</td><td>105</td><td>120</td><td>116</td><td>103</td></tr> <tr> <td>定 員</td><td>120</td><td>120</td><td>120</td><td>120</td></tr> </tbody> </table> ○バス通学費補助 133 人、1,600 千円 (H30:128 人、1,600 千円、R1:149 人、1,600 千円、R2:143 人、1,600 千円)					H30	R 1	R 2	R 3	入学者数	105	120	116	103	定 員	120	120	120	120
	H30	R 1	R 2	R 3															
入学者数	105	120	116	103															
定 員	120	120	120	120															
事業の課題及び方向性	【課 題】定員確保、高等学校再編後も存続可能な将来像の構築が求められています。 【方向性】高遠高等学校は、コース制を導入する等、特色ある学校運営を行っています。地域の魅力ある学校として発展していくためにも、「高遠学園構想」に基づく特色ある教育の拡充、高遠中学校等との連携及び定員確保へ向けた遠距離通学者の利便性を高める支援が引き続き必要です。																		
自己評価	B																		

事務事業	No.1 2	私立高等学校振興	R3 年度決算額	1,032 千円
事業の目的	地域の私立高等学校の振興を図るため、私立高等学校の運営を支援します。			
事業内容	伊那西高等学校に対する支援 ・職員の待遇改善・福利厚生、保護者の負担軽減等の支援			
達成状況	同校は、市内の生徒を多数受け入れており、地域の高等学校教育に大きな役割を果たし、地域に根ざした高等学校として定着しています。 【参考】定額補助 1 校当たり 600,000 円 (H22 から 600,000 円) 生徒割補助 1 人当たり 2,600 円 (H22 から 2,600 円) 伊那市に住所を有する生徒数 166 人 (H30:176 人、R1:149 人、R2:148 人) 全校生徒数 422 人 (H30:460 人、R1:435 人、R2:411 人)			
事業の課題及び方向性	【課 題】S63 から普通コース、進学コースの2コース制を導入しています。地域の中学校との連携を重視し、受験機会の複数化、特色ある教育の充実及び定員確保に引き続き努めていく必要があります。 【方向性】地域の高等学校教育に果たす役割や学校運営を取り巻く厳しい状況を考慮し、学校運営費補助を継続して行います。			
自己評価	B			

(2)大学との連携

事務事業	No.1 3	信州大学・東京藝術大学等との連携	R3 年度決算額	0 千円
事業の目的	高度で専門性のある教育を受ける環境を創出します。			
事業内容	信州大学との地域連携、交流の続く東京藝術大学、市内高校等との連携強化			
達成状況	○オンラインで音楽劇の指導（東京芸大→伊那東、高遠北） ○理科に必要な機器（光合成の測定）の製作（信大工学部→伊那中） ○信州大学生による中学校学力支援ボランティア9人（H30:3人、R1:7人、R2:5人） ○信州大学農学部教職免許取得学生の研修受入れ（※ コロナ感染対策により未実施） ○信州大学生のボランティアによる通学合宿（※ コロナ感染対策により未実施） ○信州大学生・高遠高校生徒のボランティアによるおいで塾への協力 ○授業で書写指導や英語クラブとの交流等を実施（高遠高校→伊那東、高遠北小、西箕輪中） ○オンライン授業で美術専攻生徒による校内写生会での助言を実施（高遠高校→高遠中） ○オンライン授業でミヤマシジミの保全活動及び竹製品の製作（関西学院大→伊那西小） ○市内中学校・高等学校の吹奏楽、合唱部員等を対象に、東京藝術大学学生を講師として行われる講習会（※ コロナ感染対策により未実施）			
事業の課題及び方向性	【課題】連携を通じ、専門性のある教育を受ける環境の創出とともに、信州大学卒業生の伊那市内企業への就職、市内での就農につながる取り組みが求められています。また、南信工科短期大学校等との連携により、これからの地域のものづくり産業を支えていく人材の育成を模索していきます。 【方向性】様々な機会を通じ、信州大学・東京藝術大学等の大学や、地元の南信工科短大、高校との交流活動により、互恵関係を築く取り組みにチャレンジします。			
自己評価	C			



東京藝術大学の学生から吹奏楽指導を受ける中学生（令和元年度）

1-3：心の教育

小中学校における心の問題や不登校、いじめ、虐待問題など様々な悩みを抱える児童生徒に対して、各種相談やきめ細かな支援を行うため、学校・家庭・地域・関係機関の連携強化を図るとともに、良好な環境の中で育てができるよう家族全体を支援します。

(1) 不登校対策の推進

事務事業	No.1 4	中間教室	R3 年度決算額	7,021 千円
事業の目的	不登校の児童生徒の居場所を確保し、集団適応指導、学習指導及び教育相談等を行います。			
事業内容	中間教室の設置 ・適応指導員による相談支援、体験活動、集団活動、学習指導等 【小学部】 開設：毎週月～金曜日、時間：9:00～15:30、会場：やまびこ学級 【中学部】 開設：毎週月～金曜日、時間：9:00～16:00、会場：やまびこ学級 【夜間部】 開設：毎週月～水曜日、時間：17:30～20:30、会場：やまびこ学級 【寺子屋】 開設：毎週月～木曜日、時間：13:00～16:00、会場：市内公民館等（4か所）			
達成状況	○中間教室通室児童生徒に対し、集団適応指導、学習指導及び教育相談等を行いました。また、R3から新たに教育支援コーディネーターを配置するとともに、夜間部と寺子屋（分室）を開設し、多様な学びの場の確保に努めました。 【参考】 通室者数 小学部 9人（H30:8人、R1:4人、R2:3人） 中学部 22人（H30:13人、R1:10人、R2:10人） 夜間部 10人 ※中学部、寺子屋との重複あり 寺子屋 11人 ※小学部、中学部、夜間部との重複あり 通室割合（通室児童生徒数／不登校児童生徒数） 小学部 19.6%（H30:32.0%、R1:13.8%、R2:10.7%） 中学部 19.6%（H30:23.2%、R1:18.2%、R2:16.7%）			
事業の課題及び方向性	【課題】 長期化した不登校児童生徒への支援が課題であり、未然防止、早期発見、早期対応が求められています。 【方向性】 学校、子ども相談室、医療機関等との連携を図りながら、児童生徒、家庭への早期対応、支援に努めます。 不登校となっている児童生徒が、将来自立できるように（ひきこもりとならないために）訪問型の支援など、新たな取組により充実を図ります。			
自己評価	A			

事 務 事 業	No.1 5	不登校児童生徒支援ネットワーク	R3 年度決算額	26,442 千円	
事業の目的	指導主事、学校、子ども相談室、中間教室、福祉、医療、民間支援団体等、関係機関が連携し不登校児童生徒の早期発見、早期対応、支援を行います。				
事 業 内 容	○指導主事、学校、中間教室、子ども相談室等が連携した不登校児童生徒の支援 ○中学校への市費特別加配講師の配置 ○上伊那子どもサポートセンターの運営支援 ○児童自立支援団体の運営支援				
達 成 状 況	○不登校児童生徒は増加傾向あります。 ○不登校・不適応の傾向を持つ生徒の生活指導や教科指導を行うため、中学校に市費特別加配講師を配置しました。（5中学校へ12人） 【参考】不登校児童生徒数・割合（ ）は%				
		H30	R 1	R 2	R 3
	小学校	25 人 (0.69)	29 人 (0.81)	28 人 (0.81)	46 人 (1.35)
	中学校	56 人 (2.80)	55 人 (2.77)	60 人 (3.12)	112 人 (5.91)
	合計	81 人 (1.43)	84 人 (1.51)	88 人 (1.63)	158 人 (2.97)

事業の課題及び方向性	【課題】早期発見、早期対応等により、不登校を長期化させない対応が必要です。 【方向性】スクールカウンセラー、子どもと親の相談員等の相談・支援体制の充実を図るとともに、関係機関と連携して対応します。また、児童生徒理解に基づく不登校児童生徒の早期発見・早期対応等、新たな不登校を出さないための取組を進めます。		
自己評価	B		

(2)虐待防止対策の推進

事務事業	No.16	子育て教育支援相談、家庭児童相談	R3 年度決算額	25,158 千円
事業の目的	親の養育力と家族機能を高め、子どもが自立へ向けての生きる力を培うため、家族、地域、関係機関が連携し、乳幼児期から思春期まで一貫した相談支援を行います。			
事業内容	○関係機関との連携及び支援（保健・医療・福祉・教育・警察・司法等） ○要保護児童及び生徒（虐待を受けている児童、非行、真犯等）の保護 ○個別ケース支援会議による関係機関の役割分担と連携 ○教育相談・就学相談			
達成状況	○子ども相談室を中心に、関係機関と連携して多数の相談や案件に対応しました。 ○支援が必要な保護者またはその子どもの一時休息事業（レスパイト事業）を実施しました。 ○児童虐待へ対応を強化するため、関係機関（学校・保育園及び関係職員）の研修を実施しました。また、個別ケース支援会議を開催し通告後の子どもの安全を守るための支援を強化しました。 ○教育支援委員会を年間 15 回開催し、その児童生徒に合った適切な就学及びその後の一貫した教育支援を行った。 【参考】相談・支援数 1,905 件（H30：1,449 件 R1：1,715 件 R2：1,982 件） 児童虐待通告件数 77 件 120 人 （H30：77 件 162 人 R1：64 件 122 人 R2：101 件 163 人） 個別ケース支援会議 232 回（H30：252 回 R1：327 回 R2：258 回） 教育支援委員会に諮った幼児児童生徒数 119 人 （H30：122 人 R1：112 人 R2：113 人）			
事業の課題及び方向性	【課題】○相談件数が増加するとともに、相談内容は多様化し、緊急性が増しています。また、児童虐待についても困難な事例が多く、幅広い見識や専門性の高い対応が求められています。 ○児童相談所の管轄区域が広範囲となっていることから、通告を要するケースが生じた場合、児相から現場への移動に相当の時間を要し、迅速な対応ができない場合もあります。 【方向性】今後は問題が深刻化する前に対応するため、関係機関との連携体制の更なる充実と、早期支援等の防止施策や子どもの健やかな育ちを阻む種々の根本要因に対応する施策の検討が求められます。また、虐待通告を要するケースは年々増加傾向にあり、緊急を要する事案は児童生徒の生命に関わることであるので、上伊那地域へ児童相談所の設置を望みます。			
自己評価	B			

(3) いじめ防止対策の推進

事 務 事 業	No.1 7	子どもと親の相談員の配置	R3 年度決算額	14, 401 千円
事業の目的	児童生徒やその保護者が抱える不安や、悩みの相談に当たる相談員を小中学校に配置し、児童生徒が安心して充実した学校生活を送ることができるよう支援します。必要に応じて子ども相談室、中間教室、スクールカウンセラー等と連携し、不登校、不適応傾向の児童生徒とその保護者の支援を行います。			
事 業 内 容	○ 児童生徒の話し相手・悩み相談 ○ 不登校傾向の児童生徒の早期発見・早期対応（家庭訪問含む） ○ 不登校児童生徒及び不登校児童生徒をかかえる家庭への対応等 ○ 市費による子どもと親の相談員の配置 相談員 13 人を 14 校へ配置（2 校兼務 1 人）			
達 成 状 況	小学校における延べ相談件数 7, 020 件 (H30:7, 131 件、R1:5, 943 件、R2:5, 379 件) 中学校における延べ相談件数 4, 968 件 (H30:3, 570 件、R1:4, 798 件、R2:4, 932 件)			
事業の課題及び方向性	【課 題】不登校やいじめに発展する前の早期対応が大事であり、児童生徒やその保護者に対する相談支援体制の一層の充実が求められています。 【方向性】必要に応じ専門機関と連携を図り適時の支援ができるよう、相談体制の充実を図ります。			
自己評価	B			

事 務 事 業	No.1 8	スクールカウンセラーの配置	R3 年度決算額	2,384 千円
事業の目的	児童生徒、保護者及び教職員等に対し、心理的側面から専門的援助を行い、教育相談体制の充実を図ります。			
事業内容	スクールカウンセラーの配置 全小中学校 ・ 県費配置4人に市費による配置時間の上乗せを行い、適時の相談支援に努める。			
達成状況	県から配当された相談時間では十分な対応ができないため、市費で相談時間の上乗せを行いました。 【参考】 相談件数 小学校延べ539件 (H30:533件、R1:514件、R2:454件) 中学校延べ401件 (H30:556件、R1:490件、R2:415件) 相談時間 県費 1,091時間 (H30:1,299時間、R1:1,042時間、R2:1,116時間) 市費 476時間 (H30:192時間、R1:452時間、R2:453時間)			
事業の課題及び方向性	【課 題】 不登校等、児童生徒やその保護者への早期対応が求められていますが、十分な人的配置がされているとは言えない状況にあります。 【方向性】 県の配当時間を増やすよう働きかけるとともに、市としても必要な時間について引き続き予算の確保に努めます。			
自己評価	B			

1－4：青少年健全育成・家庭教育

青少年の健全育成に向けて、安心安全を踏まえた学童クラブの施設整備に努め共働き世帯を支援するとともに、学校、地域と連携し、青少年を育てる環境づくりを進めます。

(1) 子どもの居場所と安心安全の確保

事務事業	No.19	少年補導委員会・少年補導センター	R3 年度決算額	483 千円
事業の目的	青少年の健全育成と非行防止を図るため、関係団体と連携を図りながら、街頭巡回などを実施します。			
事業内容	少年補導センター及び補導委員の配置 ・少年補導センターの運営 ・補導委員は、55 人を 11 班に編成し、毎週土曜日と第 3 日曜日に街頭巡回を実施するとともに、学校の長期休業中は特別街頭巡回を実施（巡回日数 32 日）			
達成状況	街頭巡回による声がけ件数は減少傾向にあり、巡回活動が非行防止の一助となっています。この声がけ件数の減少を踏まえ、巡回場所などの見直しを行いつつ、コロナ感染防止対策を行いながら実施しました。 【参考】 巡回活動延べ人員 123 人（R1:261 人、R2:213 人） 声かけ件数 25 件（R1:55 件、R2:38 件）			
事業の課題及び方向性	【課題】 インターネットの普及により、子どもを取り巻く環境が変化しています。 【方向性】 環境の変化を見ながら、引き続き、新たな活動内容について検討していきます。			
自己評価	B			

事務事業	No.20	学童クラブ	R3 年度決算額	83,280 千円
事業の目的	下校後、保護者が就労などにより不在のため、適切な保護が受けられない児童の保護及び健全育成を図ります。			
事業内容	学童クラブの設置 伊那小、伊那東小、伊那北小、伊那西小、富県小、新山小、美簗小、手良小、東春近小、西箕輪小、西春近北小、西春近南小、高遠小、高遠北小、長谷小の全 15 小学校に開所			
達成状況	入所者が多い伊那小・伊那東小・西箕輪小は 3 クラブ、伊那北小・美簗小・東春近小学童クラブは 2 クラブ体制で運営しました。 コロナ禍にあっても、学校と連携し、感染防止対策を行いながら開所しました。 ○施設整備 伊那西小学童クラブ 駐車場整備工事 150 千円 美簗小学童クラブほか営繕工事 434 千円 【参考】 登録者数 644 人（H30:631 人、R1:675 人、R2:650 人） 登録者数／児童数 18.8%（R1:18.9%、R2:18.7%）			
事業の課題及び方向性	【課題】 保護者の共働き増加に伴い、利用人数が増加しています。 【方向性】 施設の老朽化・狭隘（きょうあい）施設の整備、支援員の確保などについて、学校などと連携を図りながら対応を検討していきます。			
自己評価	A			



学童クラブでの様子

(2) 地域・関係機関との連携による家庭教育の充実

事務事業	No.2 1	青少年育成対策	R3 年度決算額	2,030 千円
事業の目的	各地区子ども会・育成会などと連携し、青少年の健全育成事業を推進します。			
事業内容	○地区における青少年の健全育成活動等に対する補助 ○有害環境のチェック活動の実施 ○よりよい教育環境推進協議会の運営 ○わんぱく広場の開催 ○情報紙「えがお」の発行			
達成状況	新型コロナウイルス感染症の影響により、各地区では行事中止など事業縮小になりました。 コロナウイルス感染拡大防止のため、わんぱく広場を中止しました。 感染防止対策を実施しながら、環境チェック活動を行いました。 学校の活動等について紹介する情報誌「えがお」について、年8回発行しました。			
事業の課題及び方向性	【課題】 地区によっては、過疎化、高齢化による組織的な問題が生じています。 【方向性】 子ども会・育成会は、地区の青少年健全育成の中心として大きな役割を担っており、引き続き連携した活動を行っていきます。			
自己評価	C			

事務事業	No.2 2	成人式	R3 年度決算額	1,282 千円
事業の目的	新成人を祝い、成人としての意識の高揚を図るため、式典を開催します。			
事業内容	成人式を公民館単位の10地区で実施 伊那地区 (対象：21歳に到達する者 開催 8月14、15日) 高遠町・長谷地区 (対象：20歳に達する者 開催 1月1、2日)			
達成状況	高遠町・長谷地区は予定どおり令和4年1月1、2日に、令和3年8月から延期していた伊那地区を令和4年1月9日に開催しました。 コロナ禍で、参加人数は例年より減少しましたが、懐かしい恩師や仲間の出会いの場ともなり、好評でした。			
事業の課題及び方向性	【課題】 開催方法、時期について方向性を決定する必要があります。 【方向性】 伊那市成人式のあり方について、開催方法、時期について早期に決定していきます。			
自己評価	B			



伊那市成人式（竜東地区）



受付の様子

第2節 生涯にわたる学びの支援とスポーツの振興

信州大学や東京藝術大学をはじめとする教育機関等との連携を図りながら、市民一人ひとりが目的に応じて、「いつでも、どこでも、いつまでも」学びやスポーツに親しむことができるよう、学習機会の充実と環境づくりを進めます。また、国指定史跡である高遠城跡などの有形文化財をはじめ、無形民俗文化財など地域の文化財や伝統芸能の保存・継承・活用を推進するとともに、歴史・文化・芸術の振興を図ります。

2-1：生涯学習

生涯学習の総合的な指針「第2次伊那市生涯学習基本構想」に基づく計画的な事業実施により、自然や文化、歴史、産業等地域の特徴を生かした生涯学習を推進し、年齢や職業を超えたあらゆる人々が興味を持って学ぶことのできる環境づくりに努めます。また、地域文化や生涯学習の拠点として、公民館の適正な維持管理に努め、施設の長寿命化を図るための施設改修等を行うほか、地域の「知の拠点・情報拠点」としての図書館の充実・活用を図るとともに、上伊那地域の図書館との連携により、利用者の利便性向上に努めます。

(1)生涯学習・社会教育の推進

事 務 事 業	No.2 3	市民大学・市民大学大学院	R3 年度決算額	2,313 千円
事業の目的	生涯学習における市民の機運を醸成し、学習推進のための機会を創出します。			
事業内容	芸術文化、歴史、自然科学、健康、音楽、人権などに関する講座の開催			
達成状況	コロナ禍の下、感染防止対策を行いつつ、内容などを考慮しながら講座を開催しました。 【市民大学】開設24年目を迎え、様々な分野での学習探究の場として幅広く、充実した講座を開催しました。			
	令和3年度 講座内容			
	「シニア世代の健康づくりと食生活」(講師：矢崎真樹子)			
	「男らしさ、女らしさより自分らしさが社会を変える」(講師：ブルボンヌ)			
	「能楽体験講座」(講師：中家美千代)			
	「こころとからだの元気体操」(演奏者：山岸洋子)			
	「よりよい生き方を求めて」(講師：松田泰俊)			
	「伊那という地」(講師：笠原 千俊 副学長)			
	「市政よもやま話」(講師：白鳥 孝 学長)			
	「藤村の『夜明け前』と大河ドラマ『青天を衝け』」(講師：堀井 正子)			
	「寺社巡り 法音寺」(講師：酒井 正純)			
	「野鳥の魅力」(講師：戸谷省吾)			
	「伊澤修二入門」(講師：塚田博之) ほか7 講座 計 18 講座			
	【参考】第23期 後期 学生数 31 人 9講座(4講座中止) 第24期 前期 学生数 32 人 9講座(5講座中止)			
	【市民大学大学院】市民大学の修了者を対象に、さらに学習を深めていただく専門的な学びの場として2つのコースを用意し、6期後期、7期前期を開講しました。			
事業の課題及び方向性	令和3年度 研究内容			
	歴史コース : 城下町の災害状況と救済方法(寺社との係わり) ほか			
	自然科学コース : 豊かな自然は山野草の宝庫 ほか			
	【参考】第7期前期 歴史コース 3人4講座 自然科学コース 2人2講座			
自己評価	【課 題】学生増加を目指し、充実した学習機会とすべく、受講者の学習要求を的確にとらえた魅力ある講座運営を行う必要があります。			
	【方向性】受講生による自主運営を基本に、魅力ある講座等を企画運営します。また、学習の成果が地域での活動に活かせるように促します。			
自己評価	B			

事 務 事 業	No.2 4	桜大学	R3 年度決算額	393 千円
事業の目的	生活にうるおいと生きがいを与え人生を心豊かに生きるため、生涯学習の場を提供します。			
事 業 内 容	講座の開催（4月29日～11月20日 会場：やますそ）			
達 成 状 況	公民館活動のひとつとして、コロナ感染防止対策を行いながら実施しました。 43回目を迎えた、高遠町地域の内容を主とした伝統ある学習の場です。			
	令和3年度講座内容（講師）			
	「武田氏の伊那統治について」		（武田氏研究会副会長 平山 優 氏）	
	「近年の災害時列に学ぶ地域防災の取り組み」		（山梨大学准教授 秦 泰範 氏）	
	「満州移民と高遠町」		（筑波大学教授 伊藤 純郎 氏）	
	「コロナ禍の時こそ心豊かに生きる」		（前信濃教育会会長 後藤 正幸 氏）	
	【参考】受講者数 309 人（H29:710 人 H30:542 人 R1:370 人 R2:115 人）			
事業の課題及び方向性	【課 題】講座内容、講師など地域の特性を活かした運営が求められています。 【方向性】高遠町地域に縁がある方、地域について研究されている方などを講師に招き、地域の特性を生かした内容を検討していきます。			
自 己 評 価	B			

事務事業	No.2 5	長谷生涯学習講演会	R3 年度決算額	255 千円
事業の目的	地域住民の生活及び文化、教養の向上を図るため、生涯学習の場を提供します。			
事業内容	講演会の開催（11月6日 会場：長谷小学校 体育館） ・公民館、小中学校、小中学校PTA共催の、著名な講師を招いた講演会の開催。			
達成状況	コロナウイルス感染対策を徹底し開催しました。			
	講演 あきらめない心（元北京・ロンドンパラリンピック競泳日本代表／伊藤真波 氏） バイク事故で右腕を失い一時は人生に絶望しながらも、挫折に向き合い夢に挑み続ける事の大切さをお話しいただきました。講演の最後には義手によるバイオリンの演奏も披露され、聴講者の皆さんは熱心に耳を傾けていました。 【参考】聴講者数 73 人			
事業の課題及び方向性	【課題】貴重な機会であり、長谷地区をはじめ、より多くの市民に聴講いただけるよう周知していく必要があります。			
	【方向性】過疎化や高齢化の進む地域においても住民が質の高い文化に触れる貴重な機会として、今後も工夫しながら進めます。			
自己評価	A			

長谷生涯学習講演会の様子



講師の伊藤 真波さん



専用の義手によるバイオリン演奏

事務事業	No.2 6	社会人権同和教育	R3 年度決算額	2,381 千円
事業の目的	基本的人権を尊重し、人権問題に対する理解を促進するため、学習する機会を提供します。			
事業内容	同和問題や性別問題などの人権問題について、考え、学習する機会を創設します。 ・人権同和教育推進協議会の開催 ・人権問題についての講演会、巡回講座、学習講座の開催			
達成状況	コロナ禍の下、感染防止対策を行いながら講座を開催しました。 公民館等と連携して講座を開催しつつ、幅広い世代で人権問題に対する理解が得られるよう、性的少数者への理解として、LGBT など講話を取り入れました。 【参考】 講演会4回・398人 (R1:5回・615人、R2:4回・349人) 公民館人権講座9回・195人 (R1:11回・321人、R2:9回・225人)			
事業の課題及び方向性	【課題】 社会の急激な変化により、インターネット上での誹謗中傷などの問題が生じています。 【方向性】 全ての差別問題に対して、人権を学ぶ機会や情報の提供など啓発活動を進めます。			
自己評価	B			

事務事業	No.2 7	学校人権同和教育	R3 年度決算額	345 千円
事業の目的	人権教育はすべての教育の基本という理念に立ち、各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動などの特質に応じて、教育活動全体を通して計画的に推進し、人権感覚を培い、人権課題を自ら解決する意欲と実践力を持つ子どもたちを育てます。			
事業内容	○伊那市学校人権同和教育研究推進委員会の開催（委員長・副委員長・委員各学校1名） ○人権教育講演会等の実施			
達成状況	○全ての小中学校において、それぞれの地域性、課題等の実態に沿った人権同和教育計画を立て、全教育活動を通じて実践しました。 ○伊那市学校人権同和教育研究推進委員会の開催 5回 学社連携による合同会議（2回）、研修会、人権同和教育研究授業参観・授業研究会開催 ○H28に作成した「伊那市人権同和教育学習指導案集」の修正を行うとともに、性的少数者の人権に関する取組について増頁を行い、小中学校における人権同和教育に活用しました。 ○人権同和教育研修会を小学校2校、中学校1校で実施しました。			
事業の課題及び方向性	【課題】 経済状況の悪化、いじめ、児童虐待等子どもたちを取り巻く環境は深刻です。また、子どもたちのコミュニケーション力、自尊感情の低下等が懸念されています。 【方向性】 教職員が豊かな人権感覚を持ち、人権尊重の理念に基づいた人権教育を実践する力量を高めるよう教職員研修の充実に努めるとともに、子どもたちの実体験の機会を増やす等の取組を通じ、豊かな人間性の育成に努めます。			
自己評価	B			

(2) 公民館活動の推進

事 務 事 業	No.2 8	集会施設整備事業補助	R3 年度決算額	1,822 千円
事業の目的	地域住民の福祉の向上、コミュニティの推進、災害時の拠点の確保などに資するため、集会施設等を整備する費用の一部を補助します。			
事業内容	伊那市集会施設整備事業補助金交付要綱に基づき、集会施設の新築・増築・改築及び改修工事の補助金を交付します。 ・対象施設及び交付基準 新築、改修工事 工事費の 25% 水洗化、耐震工事 工事費の 30% 等			
達 成 状 況	○申請のあった対象工事の経費の一部を補助しました。 【参考】 補助施設数 5 件 1,822 千円 (R2: 8 件 3,432 千円)			
事業の課題及び方向性	【課 題】 地元が利用しやすい補助制度への見直しを行う必要があります。 【方向性】 集会施設等は、地域住民の福祉の向上、コミュニティ活動の推進、災害時の拠点の確保等に資するものであるため、利用しやすい制度内容への見直しを図ります。			
自 己 評 価	B			

事 務 事 業	No.2 9	公民館建設	R3 年度決算額	587,971 千円
事業の目的	地域の生涯学習や地域コミュニティの形成など、地域づくりを推進するための拠点整備として、老朽化した公民館について計画的に改築や改修を行います。			
事業内容	○計画に基づき、施設の改築や改修を行います。			
達 成 状 況	○建築に必要な用地買収を行い、新西春近公民館の建築工事を行いました。 ○旧西春近公民館解体工事実施設計を行い、令和 4 年度当初予算に解体工事費を計上しました。			
事業の課題及び方向性	【課 題】 地元や関係団体との調整 【方向性】 合併特例債を財源とし、計画的に整備を進めます。			
自 己 評 価	A			



新装された西春近公民館

事 務 事 業	No.3 0	公民館共同事業	R3 年度決算額	6,197 千円
事業の目的	青少年の健全育成と家庭教育の充実を全市統一的に図るため、9 公民館が共同して事業を実施します。 地域の公民館分館活動を支援するとともに、公民館活動への理解を深めてもらうための広報誌を発行します。			
事業内容	○キッズ王国やふるさと講座の開催 ○分館活動委託事業の実施 ○「公民館報いな」の発行			
達 成 状 況	新型コロナウイルス感染拡大の影響により、各行事について、分館を含め、中止、延期、縮小になりました。			

	・「ふるさと講座」(手良公民館 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止) ・「キッズ王国」(新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止) ・84 分館に活動委託 ・館報毎月発行第 511 号～第 522 号
事業の課題及び方向性	【課 題】地域や関係団体と連携し、充実を図る必要があります。 【方向性】「子どもが集う公民館」を重点テーマに、参加規模が大きな事業について、支援ボランティアの確保を進めながら公民館全体で共同事業として取り組みます。
自己評価	C

事 務 事 業	No.3 1	公民館活動事業	R3 年度決算額	3,199 千円
事業の目的	生涯学習を通じた生きがいづくりや地域づくりを推進するための機会を創出します。			
事 業 内 容	市内9公民館において、高齢者、女性、成人、青少年、家庭など様々な分野において教室・講座・イベントなどを開催すると共に、広く学習の場を提供します。			
達 成 状 況	コロナ禍の下、感染防止対策を実施しながら、各地域の特色や住民要望に応えたさまざまな講座を開催しました。			
	公民館	令和3年度活動内容（特徴的なもの）		
	伊 那	らっこルーム、女性教室、伊那おやじの会、高齢者教室、市民ガーデニング講座、楽しい切り絵教室、など		
	富 県	富県麻雀教室、トムキャロット、のどか学級、いきもの探検隊、俳句教室、うたの教室、など		
	美 簗	親子青空教室、「芽と実」読み聞かせ、童謡・唱歌の集い、健康マージャン教室、ノルディックウォーキングなど		
	手 良	わいわいくらぶ、茶道教室、おいさんずくらぶ、四ツ葉の集い、手良の歴史講座、など		
	東春近	楽生学級、女性教室、くれよんクラブ、チャレンジおっとこ塾、童謡唱歌を楽しむ会、など		
	西箕輪	わんぱく親子塾、春の自然観察会、料理教室、陶芸教室、歴史講座など		
	西春近	父居屋の会、かるがも学級、女論の会、万年青の会、文化祭、区民登山など		
	高 遠	美術館・歴史博物館特別展講座、最も美しい村・ジオパーク講座、さくらんぼきつず、桜大学講座、そば打ち講座、各種球技大会など		
	長 谷	入野谷講座、ソフトテニス教室、くじらくらぶ、女性教室、うたのラウンジなど		
	夏休み中の小学生を対象として、居場所づくり、学習機会の充実、生活習慣の維持などを目的に、各館において『おいで塾』を行いました。（3～5日間 251人参加） 新型コロナウイルス感染症対策のため、8月23日から9月12日、令和4年1月26日から3月6日まで臨時休館としました。 【参考】講座・教室・イベントなど公民館利用者数 103,645人 (R1:161,611人、R2:97,469人)			
事業の課題及び方向性	【課 題】ニーズの高い事業を把握し、実施することや公民館活動を通して、生涯学習と地域づくりを進めることが必要です。 【方向性】(1)まなぶ…いつでも、どこでも、だれもが学ぶことができ、学び合い、育ち合い、高めあう機会と場を提供します。 (2)つなぐ…出会い、ふれあい、交わりを大切に、仲間づくりと地域の交流を進めます。 (3)つくる…地域課題に取り組み、生き生きとした地域づくりと地域文化の伝承と創造を目指します。			
自己評価	B			



公民館講座の様子

(3) 図書館の充実

事務事業	No.3 2	蔵書管理	R3 年度決算額	13,416 千円															
事業の目的	市民が自主的な学習を行う「知の拠点」となるため、図書や情報資料の提供の充実を図ります。																		
事業内容	○伊那図書館、高遠町図書館の運営管理 ○図書館資料の管理（選書、発注、装備・登録・修理、除籍） ○図書館システムの維持・管理 ○学習の場の提供																		
達成状況	・新システムに更新を行い、図書データのより適正な保守管理、運用に努めました。 ・諸資料の購入・整備、利用者への貸出・閲覧を行いました。 ・資料を有効活用するため、テーマ展示を定期的に行いました。 【参考】 蔵書数は図書のみ、() 内 R2 <table border="1"> <thead> <tr> <th>名 称</th><th>蔵書冊数</th><th>貸出冊数</th><th>登録者数（個人）</th><th>利用者数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>伊那図書館</td><td>223,909 (222,882)</td><td>255,727 (274,452)</td><td>57,794 (57,019)</td><td>59,563 (54,730)</td></tr> <tr> <td>高遠町図書館</td><td>90,571 (93,699)</td><td>38,991 (35,138)</td><td>6,900 (6,820)</td><td>8,104 (7,340)</td></tr> </tbody> </table> 新型コロナウイルス感染症対策のため、8月23日から9月12日、令和4年1月26日から3月6日まで臨時休館としました。				名 称	蔵書冊数	貸出冊数	登録者数（個人）	利用者数	伊那図書館	223,909 (222,882)	255,727 (274,452)	57,794 (57,019)	59,563 (54,730)	高遠町図書館	90,571 (93,699)	38,991 (35,138)	6,900 (6,820)	8,104 (7,340)
名 称	蔵書冊数	貸出冊数	登録者数（個人）	利用者数															
伊那図書館	223,909 (222,882)	255,727 (274,452)	57,794 (57,019)	59,563 (54,730)															
高遠町図書館	90,571 (93,699)	38,991 (35,138)	6,900 (6,820)	8,104 (7,340)															
事業の課題及び方向性	【課 題】多様化する市民の知的ニーズに応えるとともに、図書や図書館を取り巻く社会状況の変化に対応していく必要があります。 【方向性】調査・研究・資料の収集整理をし、情報提供を積極的行います。また、引き続きイベントなどを通して、親しみやすい図書館になるよう努めます。																		
自己評価	B																		

事務事業	No.3 3	図書館イベント	R3 年度決算額	217 千円
事業の目的	幅広い世代が「実感・体感」を伴った知の獲得と創造する営みの楽しさを得るため、各種イベントを開催するとともに、ボランティアなどの人材育成を推進します。			
事業内容	○おはなしのひろばの開催（職員、ボランティアによる読み聞かせ） ○ブックスタートの実施（乳児へ絵本のプレゼント） ○各種講座 児童対象：おはなしのひろば、おりがみ教室、工作教室など 一般対象：絵本講座など ○利用者団体への支援			
達成状況	コロナ対策として、密を避けるために定員を設け、事前申込み制にするなどの対応を図りながら開催しました。各種イベントや講座の開催を通じて、市民に親しみやすい図書館が定着しています。 【参考】ブックスタート 363 冊 (R1:456 冊、R2:406 冊)			

	イベント 68 回 1,403 人 (R1:222 回 6,084 人, R2:89 回 1,762 人) 広域情報コーナー利用 13 団体 (R1:17 団体、R2:12 団体)
事業の課題及び方向性	【課 題】市民に身近な図書館となるために、市民との協働による図書館運営を図ると共に、ウィズコロナ、アフターコロナ下での企画運営を行っていく必要があります。 【方向性】市民と協働しながら、イベントや講座など魅力ある図書館運営を進めます。
自己評価	B



図書館イベントの様子

事務事業	No.3 4	図書館分館	R3 年度決算額	3,150 千円																																								
事業の目的	地区住民の図書館利用の利便を図るため、地区公民館に図書室を設置し、図書や情報資料の提供の充実を図ります。																																											
事業内容	○図書館分館（公民館図書室）の運営と管理 ○公民館の改築にあわせた図書館分館の設置 ○学習の場の提供																																											
達成状況	利用時間の制限など、コロナ感染防止対策を行いながら開館しました。 西春近公民館図書室の開設に向けた資料整備を行いました。 【参考】蔵書数は図書のみ、() 内 R2 <table border="1"> <thead> <tr> <th>名 称</th><th>蔵書冊数</th><th>貸出冊数</th><th>登録者数 (個人)</th><th>利用者数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東春近</td><td>19,227 (18,995)</td><td>23,795 (15,885)</td><td>1,477 (1,465)</td><td>4,116 (2,532)</td></tr> <tr> <td>富 県</td><td>15,305 (14,997)</td><td>18,680 (16,041)</td><td>830 (818)</td><td>3,381 (2,372)</td></tr> <tr> <td>手 良</td><td>13,628 (13,132)</td><td>17,562 (16,135)</td><td>517 (506)</td><td>3,760 (3,324)</td></tr> <tr> <td>長 谷</td><td>12,160 (12,138)</td><td>4,130 (4,317)</td><td>217 (215)</td><td>933 (964)</td></tr> <tr> <td>美 簫</td><td>17,522 (17,129)</td><td>20,597 (13,855)</td><td>943 (922)</td><td>2,352 (2,687)</td></tr> <tr> <td>西箕輪</td><td>8,019 (7,444)</td><td>15,909 (12,585)</td><td>392 (377)</td><td>2,450 (2,382)</td></tr> <tr> <td>合 計</td><td>85,861 (83,835)</td><td>100,673 (78,818)</td><td>4,376 (4,303)</td><td>16,992 (14,261)</td></tr> </tbody> </table> ・施設利用率（各地区利用者数／分館設置地区の人口）67.02%（56.2%） 新型コロナウイルス感染症対策のため、8月23日から9月12日、令和4年1月26日から3月6日まで臨時休館としました。				名 称	蔵書冊数	貸出冊数	登録者数 (個人)	利用者数	東春近	19,227 (18,995)	23,795 (15,885)	1,477 (1,465)	4,116 (2,532)	富 県	15,305 (14,997)	18,680 (16,041)	830 (818)	3,381 (2,372)	手 良	13,628 (13,132)	17,562 (16,135)	517 (506)	3,760 (3,324)	長 谷	12,160 (12,138)	4,130 (4,317)	217 (215)	933 (964)	美 簫	17,522 (17,129)	20,597 (13,855)	943 (922)	2,352 (2,687)	西箕輪	8,019 (7,444)	15,909 (12,585)	392 (377)	2,450 (2,382)	合 計	85,861 (83,835)	100,673 (78,818)	4,376 (4,303)	16,992 (14,261)
名 称	蔵書冊数	貸出冊数	登録者数 (個人)	利用者数																																								
東春近	19,227 (18,995)	23,795 (15,885)	1,477 (1,465)	4,116 (2,532)																																								
富 県	15,305 (14,997)	18,680 (16,041)	830 (818)	3,381 (2,372)																																								
手 良	13,628 (13,132)	17,562 (16,135)	517 (506)	3,760 (3,324)																																								
長 谷	12,160 (12,138)	4,130 (4,317)	217 (215)	933 (964)																																								
美 簫	17,522 (17,129)	20,597 (13,855)	943 (922)	2,352 (2,687)																																								
西箕輪	8,019 (7,444)	15,909 (12,585)	392 (377)	2,450 (2,382)																																								
合 計	85,861 (83,835)	100,673 (78,818)	4,376 (4,303)	16,992 (14,261)																																								
事業の課題及び方向性	【課 題】より身近な地域の図書館として、子どもから高齢者までの利用者の利便を図る必要があります。 【方向性】より地身近に感じていただける図書館サービスについて検討を進めます。																																											
自己評価	B																																											

2-2：文化・芸術

多様な文化芸術や伝統芸能などの保存団体の育成を推進するとともに、意識の高揚などを通じて、市民の文化芸術活動の振興を図るとともに、新しい文化の創造を推進します。

歴史資料や美術工芸品、建造物などの文化財は、市民等の学習・研究及び地域の活性化に生かすため、適切な保存管理と有効活用を図ります。また、多様な学習ニーズに対応するため、地域の学習拠点となる各施設の充実に努めます。

(1) 文化芸術の振興と地域文化の育成

事 務 事 業	No.3 5	進徳館の日	R3 年度決算額	411 千円
事業の目的	進徳館教育から先人の遺訓を学び、その精神を現代に活かして歴史と文化のまち伊那市へ一層の発展を図ります。			
事業内容	○式典、基調講演、学習発表など（5月22日 会場：進徳館、高遠閣） ○剣道大会（中止 会場：高遠町文化体育館）			
達成状況	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策を図りながら実施しました。 実学重視の藩校「進徳館」の学びの心に触れ、藩校教育の伝統や精神を継承し、地域の生涯学習の振興を図る事業として地域に定着しています。また、旧高遠藩主をはじめ、藩関係者との交流の機会ともなっています。 【参考】 ○令和3年度 第27回進徳館の日 ・五聖像に礼拝、式典、基調講話、記念講演 ※感染症対策のため、野点、実践報告及び県外からの来賓招待を中止 【参考】例年参加人数（H28:200人 H29:250人 H30:250人 R1:100人 R02:中止 R3:80人） ○令和3年度 第23回進徳館の日記念少年剣道大会（中止） 【参考】例年参加数（H28:39チーム H29:38チーム H30:42チーム R1:27チーム R2:中止）			
事業の課題及び方向性	【課題】藩校「進徳館」の藩校教育の伝統や精神を継承し、その精神を現代に生かした事業展開を行う必要があります。 【方向性】進徳館教育の精神や優れた点を学び、現代社会に対応する方策を創造するとともに、広くPRすることによりこの事業の活用と充実に努めます。			
自己評価	B			

(2) 文化財の保存・継承・活用

事 務 事 業	No.3 6	史跡高遠城跡	R3 年度決算額	2,077 千円
事業の目的	伊那市の歴史財産である城跡の価値を損なうことなく次世代へ受け継ぎ、だれもが地域の歴史や文化を学ぶことができる環境づくりを進めるため、史跡の保存整備を行います。			
事業内容	○整備計画の進行、管理及び策定計画に基づいた工事等の実施 ○公有地化			
達成状況	○伊那市高遠城跡整備委員会の開催（1回） ○三ノ丸北側斜面整備工事 ○公有地化に向けた物件調査			
事業の課題及び方向性	【課題】整備実施計画（H17～）に基づき、残存遺構などの調査を進める必要があります。 【方向性】第3次整備実施計画に基づき事業を実施していきます。			
自己評価	B			



池上秀畝 画「旧高遠城之真景」

事 務 事 業	No.3 7	民俗資料館	R3 年度決算額	4,705 千円
事業の目的	民俗資料を継承するため、資料を収集・保管・整理・展示するとともに、体験できる施設として「高遠なつかし館」を、歴史的建造物の「旧馬島家」、「旧池上家」を企画運営します。			
事業内容	○高遠なつかし館、旧馬島家、旧池上家の企画運営			
	施設名	内 容 等		
	高遠なつかし館	住民から集めた昔懐かしい農具や生活用品などを展示しています。機織りや縄ない、蓄音機、足踏みオルガンなどの体験ができます。高遠藩医を勤めた馬島家に関する資料も展示してあります。		
	旧馬島家 (県宝)	江戸時代に高遠藩の眼科医を勤めた馬島家の住宅です。本棟造りの建物で、後世の改造が少なく、建造当初（天保7年（1836）頃）の形式を残しており、高遠藩当時の規模の大きな住宅の間取りを良く示しています。馬島家に関する資料も展示してあります。		
	旧池上家 (市指定文化財)	豪壮な歴史の重さを感じる建物で、間口5間、奥行9間の町屋造り板葺きの住宅です。町屋造りの家屋としては町内で最も古く、多くの古文書が所蔵されています。池上家は、高遠城下で醤油や酢の自家醸造や販売を営みながら、代々町の重職を務めました。		
	○特別企画展示の開催（年2回）			
達成状況	○企画展			
	「ひな人形展」2月11日～4月25日 65日開催 2,693人			
	「五月人形展」4月29日～6月29日 54日開催 601人			
	○体験イベント			
	向山雅重の世界 第1弾 10月10日 参加者 21人 秋のお茶会 10月24日 参加者 38人 しめ縄教室 12月11日 参加者 11人 わら細工教室 1月16日,23日 参加者 延べ24人 【参考】R3 年間入館者数3,994人 (R1:6,760人、R2:2,146人) 新型コロナウイルス感染症対策のため、8月23日から9月12日、令和4年1月26日から3月6日まで臨時休館としました。			
事業の課題及び方向性	【課 題】年間来館者が少ない中で、効率の良い運営のための検討を行う必要があります。 【方向性】効率の良い運営方法の検討に併せ、新たな企画展、体験講座などを実施しながら、集客できる施設運営に努めます。			
自己評価	A			



旧馬島家（県宝）



旧池上家（市指定文化財）

事務事業	No.38	旧井澤家住宅	R3 年度決算額	3,124 千円
事業の目的	伊那街道伊那部宿の宿内で唯一の本棟造で最古の建物を保存するとともに、一般公開し活用を図ります。			
事業内容	○管理・運営を地元「伊那部宿を考える会」に委託 ○一般公開			
達成状況	○新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策を図りながら一般公開を行いました。			

	○「伊那市観光協会による見学会」、「信州伊那ウォーク伊那路見学」、「鯉幟の掲揚」などの行事を行いました。 【参考】入館者数 290 人 (R1:1,263 人、R2:150 人)	
事業の課題及び方向性	【課 題】地元の歴史的施設として有効に活用するとともに、周辺施設とも関連させながら、常に魅力ある運営を継続して進める必要があります。 【方向性】地元の伊那部宿の貴重な歴史資料を生かし、多くの来館者を誘客できる施設となるよう委託先と連携しながら進めます。	
自己評価	B	

事務事業	No.39	民俗文化の伝承	R3 年度決算額	0 千円
事業の目的	「山寺のやきもち踊り」や「中尾歌舞伎」、「高遠囃子」などの民俗文化を継承する活動を支援します。			
事業内容	民俗文化の継承を図るため、国・県・市の補助・助成制度を活用した支援を行います。			
達成状況	○伝統文化親子教室事業（文化庁）を活用（5 団体） ○中尾歌舞伎継承のための取組 ・中尾歌舞伎の魅力発信、後継者育成を目的とした体験型事業「歌舞伎なりきり体験」を、中京圏旅行者向けに実施しました。 10 月 3 日 参加者 5 名			
事業の課題及び方向性	【課 題】人口減少・少子高齢化が進み地域の活力が乏しくなる中、住民自らが地域の 0 民俗文化の伝承意識を持ち、継続的また長期的に活動できる体制づくりが必要です。 【方向性】有利な財源を活用しながら、伝承における人材発掘と育成を進めます。			
自己評価	B			

事務事業	No.40	市誌編さん	R3 年度決算額	6,401 千円
事業の目的	伊那市の変遷を顧み、市民の郷土に対する関心と愛情を深め、将来の伊那市の発展に資する『伊那市誌』を編さんする。			
事業内容	○伊那市誌編さん委員会の開催 ○8 部会（概説、政治行政、自然、教育、社会、文化、産業経済、民俗）の開催 ○市誌編さんに必要な資料の収集、編さん作業			
達成状況	○伊那市誌編さん委員会（委員 13 名）（5 回）、部会（26 回）を開催し、編さん分野や編さん項目の検討を行いました。 ○編さんに必要な行政資料、刊行物資料の収集を行いました。			
事業の課題及び方向性	【課 題】地域史研究者の高齢化や減少、地域資料への無関心化による個人所有の歴史資料の散逸を防ぎ、保全していくことが求められています。 【方向性】公文書や博物館等所蔵資料を含めた地域資料を、地域の資源として 保全していく体制の検討を進めていきます。			
自己評価	A			



市誌編さん室



部会の様子

(3) 文化芸術施設の充実及び活用

事 務 事 業	No.4 1	創造館	R3 年度決算額	37,709 千円
事業の目的	市民の憩いの場及び生涯学習の場として、施設の管理運営を行うとともに、「縄文から宇宙まで」をテーマに自然科学、宇宙、考古、歴史・民俗、芸術、環境などに関する独創的な事業を実施し、夢多き未来に向かって人類の進化の礎である「創造」を実践します。			
マスコットキャラクター 「つくルン」  事業内容	○ 常設展示			
	展 示 場 所		展 示 内 容	
	常設展示室		「神子柴遺跡出土石器群」、「顔面付釣手形土器」などの考古資料の展示	
	井月展示室		井月顕彰会から寄託を受けた井月の短冊や扇子、柱掛けなど真筆を中心にした展示	
	地質展示室		岩石の標本やアンモナイトやカキの化石の展示	
	昭和の図書館		上伊那図書館時代の書籍、教育会資料 など、	
○ 企画展、特別展、講演会、講座等の開催				
○ その他 資料の保管及び貸館業務（学習室、体験学習室1、体験学習室2、講堂）				
達成状況	【講演会】新型コロナウイルス感染症対策のため中止 【講座等】宇宙の学校（5回）、地球の学校（4回）、夏の体験教室、秋冬の体験教室、学校単位での見学受け入れ、自主制作映画祭 延べ参加者 490 人 【企画展・特別展展示】 延べ観覧者 5,381 人 第25回企画展「伊那と新宿のものづくり展」（2月20日～5月31日） 第26回企画展「うつりすみ、ものをつくる」（8月14日～12月27日） 特別展 「禁煙友愛会 65 年の歩み展」（3月31日～6月21日） 特別展 「有線放送 50 周年展」（9月18日～11月3日） 【貸館】 延利用者 10,491 人 【参考】 R3 開館日数 277 日、利用者数 21,618 人 新型コロナウイルス感染症対策のため、8月23日から9月12日、令和4年1月26日から3月6日まで臨時休館としました。			
事業の課題及び方向性	【課 題】他の社会教育施設との事業内容の棲み分けを図るとともに、連携・協働を推進する必要があります。 【方向性】未来を担う子どもが興味を持つプログラムや、ユニークで魅力ある事業を実践するとともに、学習と交流の拠点施設として、利用しやすい館の運営に努めます。			
自己評価	B			

事 務 事 業	No.4 2	高遠町歴史博物館	R3 年度決算額	31,047 千円
事業の目的	市民の歴史文化に係る学習と教養の向上を図るため、地域の歴史と文化に関する資料を収集、保管、展示しつつ、各種イベントの実施により、歴史に親しむ機会を創出します。			
事 業 内 容	○常設展示			
	展示場所	展 示 内 容		
	桜シアター	高遠城址公園に咲く桜映像 高遠城の戦いVR体験		
	山車展示室	貴船社・仲町の山車、鉾持神社の祭礼の衣装、金比羅神社の幟など高遠の祭に関係するもの		
	第1展示室	守屋貞治延命地蔵 高遠で発掘された埋蔵文化財 高遠藩主内藤家の調度品、奉納武具や、高遠藩ゆかりの武器・武具 高遠城のジオラマや絵図、合戦図屏風などの高遠城関係資料 等		
	第2展示室	藩校進徳館と「高遠の学」 阪本天山、伊澤修二、伊澤多喜男、中村弥六など地域の先人たち		
	第3展示室	中村不折の書画、池上秀敏の絵画 中馬・杣・石工の道具、石仏師守屋貞治、高遠焼、駕籠 等		

	絵島囲み屋敷	江戸時代大奥で6代将軍家宣の側室月光院に仕えた絵島が、将軍家の墓参の帰路、芝居見物をして帰城が遅れ、公務をおろそかにしたとして罪に問われ、高遠へ遠流となった当時の復原屋敷を展示
○特別展、講座の開催		
達成状況	【特別展】 第70回特別展 服飾文化を支えるシゴト (3月6日～6月20日) 第71回特別展 出征兵士と家族の肖像展2021 (7月17日～8月22日) 第72回特別展 高遠今むかし (9月18日～1月25日) 第73回特別展 上伊那郡市小中学生新聞展 (10月16日～11月7日) 【講座】 歴博講座(年3回) 参加者数 延べ128人 歴博古文書講座(3講座年5回) 参加者数 延べ206人 歴博カフェ(年3回) 参加者数 延べ70人 歴博わくわく教室(年2回) 参加者数 夏:18人 秋:153人 【施設整備】 山車庫屋根修繕工事など 【その他】 地域文化デジタル化事業 【参考】 R3 年間入館者数9,561人 (R1:19,645人、R2:7,424人) 新型コロナウイルス感染症対策のため、8月23日から9月12日、令和4年1月26日から3月6日まで臨時休館としました。	
事業の課題及び方向性	【課題】市民の歴史文化の学習と教養の向上のために、所蔵資料の活用、情報発信、他の自治体との文化交流を図る必要があります。 【方向性】市民が館の取組を知り、伊那の地を愛する思いを高めてもらうよう、魅力ある特別展や講座を企画していきます。 引き続き、国立信州高遠青少年自然の家など、他団体と連携を図りながら事業を行っていきます。	
自己評価	B	



守屋貞治作「延命地藏菩薩」



各種イベントの様子

事 務 事 業	No.4 3	信州高遠美術館	R3 年度決算額	21,004 千円
事業の目的	地域の方々や伊那市を訪れる方々が芸術文化に触れ、親しんでもらう機会を提供するため、美術館を運営します。			
事業内容	○企画展 収蔵作品展、観桜期特別展や市内外で活躍する作家作品展、若手作家支援のための作品展 ○市民ギャラリー展 地元で活躍している作家やグループ、高校生、保育園児などの作品展示 ○アートスクール・楽楽講座 地元芸術家の指導と協力による、陶芸、絵画、書道などの講座開催 ○ミュージアムコンサート 弦楽器やピアノなど市内外で活躍中の演奏家によるコンサート ○美術大学との連携事業 東京藝術大学の講師・学生と地域住民による伊那市の魅力発信、芸術文化の拠点づくり			
達成状況	○令和3年度企画展			
	テ　　マ		内　　　　　　容	
	春季収蔵作品展 ー文化が結ぶ縁の物語ー (3月6日～5月9日)		東京藝大との交流や企画展開催が縁で取得した作品、また、原田政雄氏が作家との交流を通じて収集した作品や郷土作家の作品など、土地と人が育んだ文化が結んだ縁から収蔵した作品約80点を展示しました。	
	若手アーティスト展 ー山と谷のアトリエー (9月22日～11月28日)		出品作家同士の交流を一つの「アトリエ」と捉え、そこから生まれた表現のあり様を伊那谷の「山と谷」に重ね合わせて展示しました。	
	日本画三人展 ー響きあう時間ー (3月7日～6月12日)		信州・高遠の風景や自然を情緒あふれる筆致で描く高崎昇平氏、村田裕生氏、美しく繊細な色彩の少女像や母子像を描く新生加奈氏、三者三様の日本画を展示しました。	
事業の課題及び方向性	○ミュージアムコンサート 新型コロナウイルス感染予防のため開催しませんでした。			
	○美術大学との連携事業 新型コロナウイルス感染予防のため中止しました。 【参考】入館者数4,455人　(R1:10,466人、R2:2,445人) 新型コロナウイルス感染症対策のため、8月23日から9月12日、令和4年1月26日から3月6日まで臨時休館としました。			
自己評価	B			

【参 考】

令和3年度 教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書
追加・廃止事業及び前年度自己評価から変更のあった事業にかかる評価理由

1 追加事業

該当なし

2 廃止事業

該当なし

3 前年度自己評価から変更のあった事業

No.6	学力向上	A→B
「中学生の自習室」の「夏」・「春」に新たに「冬」にも開設するなど新たな学習の場を設けているが、一部募集定員に達した会場もあるものの、参加者数は伸び悩んでいる。		
No.14	中間教室	B→A
新たに、教育支援コーディネーターを配置するとともに、夜間部（毎週月～水曜日、時間：17:30～20:30）及び寺子屋（毎週月～木曜日、会場：市内公民館等）の設置により、多様な学びの場による支援の充実を図ることができた。		
No.22	成人式	C→B
コロナ禍において、感染対策を徹底しながら開催し、対象者の好評を得ることができた。		
No.24	桜大学	C→B
新型コロナウイルス感染症対策を図り実施することで、学びの機会の提供を持続させた。		
No.35	進徳館の日	C→B
新型コロナウイルス感染症対策を図り実施することで、進徳館教育の学びを持続させた。		

伊那市教育委員会評価委員による意見

伊那市教育委員会評価委員による意見

1 教育委員会評価委員による評価について

「妥当」である。(3名)

【理由等】

- ・全体的には厳しく自己評価されており、もう少し評価が上でも良いと感じる。
- ・計画した事業に対して実施した結果があり、コロナ禍で未実施となってしまってもマイナス評価する必要はないと感じる。
- ・感染症による様々な規制や条件がある中で、最大限の配慮を心掛け事業に取り組んでおり、関係者、関係機関の努力と工夫を感じる。
- ・十分な成果が得られなかった事業の評価についても客観的な判断に基づき、今後の事業運営に反映されるものと感じる。
- ・今後は税の減収も考えられるが、引き続き円滑な事業の推進を望む。

2 伊那市の教育行政及び事務事業全般について

- ・他市との比較では、とても手厚く各種事業を執行しており、市としての教育に対する理念が施策として良く表れている。
- ・今後も全国に誇れるような、斬新的な取り組みを模索しながら、これからの with コロナにおける施策を検討する必要性を感じる。
- ・コロナ禍で思うように推進できなかった事業については、必要な事業へ配分を厚くするなどの切り替えも大事であり、コロナ禍を事業存続の検討などの機会としていただきたい。
- ・共通の理念、意識を持ちながら、伊那の子どもたちのために、地域に根差した教育をさらに構築いただきたい。
- ・多岐にわたる事業をやり抜く意志があり、市民のための活動となっており、住民ニーズ、利便性に配慮された取り組みである。
- ・事業は、教育行政を核にして関係者・関係機関の連携で円滑に推進が図られている。
- ・事業評価は、一貫性があり、整理されており、次年度に向けての課題、方向性が示されており、今後、より効率的、効果的な事業に発展するものと期待したい。
- ・高校進学にあたり、進学後に学業の継続が難しく退学転学の選択を迫られる生徒がいることから、高校進学後を見据えた情報提供の充実と行政における進学後の相談窓口を検討いただきたい。
- ・伊那市の教育行政は、財源的、人材的に整っており、福祉行政も秀でたものがあることから、これからも上伊那地域を牽引いただきたい。

3 各事務事業について

No.	事務事業等	意見等
1	総合的な学習	・体力づくりについては、昨今問題視されている体力低下に資する活動となることを期待したい。
4	読書活動の推進	・図書館のシステム化は子どもの読書習慣定着につながっている。 ・本を借りる時のわずらわしさは排除いただきたい。 ・さらなる蔵書の充実をお願いしたい。
5	学校備品整備・情報教育	・タブレット端末は、コロナ禍に適した取り組みであり、インフラ整備にとともに有効活用、セキュリティー教育等の正しい利用につながる教育、教員のICT活用指導力向上に向けた研修等の充実をお願いしたい。 ・学びを止めないために、家庭でのWi-Fi環境整備も考える必要がある。 ・タブレット端末は、「学習障害」を有する子にとっては、安心できる教材の一つになると思う。 ・不登校傾向、集団適応が苦手な児童生徒は、タブレット端末の利用により在宅での学習が可能になるほか、校内での個室対応も考えられ、オンライン授業により学校との繋がりを実感できると感じる。
7	特別支援教育	・特別支援対象児童が増加傾向にあることは、これは関係者の正しい理解と啓発活動の成果であり、保護者も発達障害を理解することで適切な学習環境の選択、判断が容易になっている。 ・集団になじまないといった子どもが、次第に友達とのかかわりなどを身につけて原級に戻るなど、段階を経た支援が健やかな成長につながっている。 ・特別支援学級在籍児童についての正しい理解が進めば進むほど、適切な学習環境で過ごすことを望む保護者、子どもは増えると考えられ、支援級在籍児童保護者に向けて、高校では支援が必要な生徒への配慮はあるが、支援学級はないことを伝えておくことも必要だと感じる。
13	大学等との連携	・対面でのアプローチは、オンラインでは伝わらない価値がある。様々な方法があるので、肌で感じられる交流を実施いただきたい。
3	幼保小中の連携	・それぞれの事業は、支援を必要とする児童生徒を対象とした事業であること、内容が豊富であること、利用する子どもの状況に合わせて利用できることなどから、安心感が得られるものである。 ・子どもたちには多岐にわたる支援が必要であり、それぞれの専門職や多くの職域からの支援や子どもの理解と情報共有が重要であると感じる。 ・「幼保小中の連携」で取り組まれている「成長ダイアリー」は、子どもの成長を記録する手帳であり、二次障害の予防、自立に向けての支援の一助、また成長に合わせた記録簿となることから、さらなる利用促進を望む。
7	特別支援教育	
8	外国籍児童生徒の支援	
14	中間教室	
15	不登校児童生徒支援ネットワーク	
18	スクールカウンセラーの配置	

6	学力向上	・引き続き、放課後や長期休業中の学びの場（子どもの居場所）の提供と、人材の確保をお願いしたい。また高校生の学びの場の提供も望まれる。
19 20	子どもの居場所	
14 15	不登校対策の推進	・市としてＳＣ（スクールカウンセラー）、ＳＳＷ（スクール・ソーシャル・ワーカー）へ更に予算の拡充をお願いしたい。 ・個人情報の面で難しいところはあるが、小中高の連携、情報の共有をお願いしたい。
11	高等学校振興	・高遠学園構想に基づき、更に高遠高校の特色を活かせるよう、地域支援コーディネーターの配置等の検討をお願いしたい。 ・地域に根差した魅力ある教育活動の展開に向けて、今後も支援いただきたい。
11 12 13	高等学校振興 私立高等学校振興 大学等との連携	・大学の専門性を活かし、各高校の特色、コースに添えるような連携の工夫を模索し、地域にも還元できるような取り組みになることを期待したい。
16	虐待防止対策の推進	・虐待問題は社会全体の深刻な問題であるが、再発予防に向けた施策は進んでいないように感じられ、対応策として幼児期から思春期まで各期に応じた性教育を検討いただきたい。
26 27	社会人権同和教育 学校人権同和教育	・人権問題や虐待問題などの講座は、より多くの方が参加できるような啓発を検討いただきたい。 ・人権同和教育に係る研修は、実際に顔を合わせて話すことでより効果が得られることから、対面で実施することが望まれる。
31 35	公民館事業 進徳館の日	・「進徳館の夏の学校」のように小さな子どもを対象とした取り組みは、生涯の学びに繋がるものであり、中学生、高校生との関わりを持ちながら、より広範囲への周知を含めて展開されることを期待したい。 ・公民館活動等については、市民のニーズをしっかりと把握する中で事業の拡大、取捨選択をしていく必要がある。 ・公民館活動は、高齢者が生涯元気で過ごすための場所としての効果も期待したい。 ・公民館で開催する講座について、より多くの市民が参加できるよう広報の充実を図っていただきたい。

令和４年度

伊那市教育委員会評価委員

高遠高等学校長

中部ＰＴＡ連合会幹事

伊那市女性人材バンク

武井 淳一

向山 竜太

笹谷 志げ子